

「体験型教育を用いた、地域の課題発見と大学生から見た問題解決方法の考察」

中部学院大学経営学部
藪下研究室

1. はじめに

- ・本調査研究の目的は、中部学院大学の学生らが行った「企業実習」、及び「道の駅実習」を通じて、地域課題の発見と、その課題の解決方法を大学生の視点から研究・探索することである。
- ・中部学院大学は関市と各務原市の2箇所位置する。学部は6学部、短大に2学科をもち、全ての学部で実習に努めている。
(図は関市のキャンパス)
- ・経営学部では1997年から企業実習を開始。以降は力を入れ、実習参加の学生は卒業生を含め、300～400名にのぼる。
また、2015年には道の駅実習を開始した。



2. 調査研究の概要

- ・今回の「地域課題発見とその解決方法の提案」プログラムは、従来からの「企業実習(インターンシップ)」と今年度開始した「道の駅実習」を組み合わせ、学生が色々な側面から社会や企業を経験することにより、地域課題の発見とともに将来の進路や地域の貢献に役立つような学修を目的とした活動である。

(a) 実施の概要(参加学生、実習の流れ)

- ・参加学生：本学の2、3、4年生(藪下ゼミナール所属学生、学部授業のインターンシップⅠ・Ⅱ、インターンシップ指導Ⅰ・Ⅱ、一般企業現場実習、一般企業現場実習事前・事後指導受講学生)の合計約40名が参加。
- ・実習期間：2015年前期(特に夏休み期間に2～3日、1～2週間、20日(実質1ヶ月)～120日(実質6ヶ月)まで多様な実習日程を設定し、学生が職場を体験する。



実習期間は企業様が定めるインターンシップ期間を実習する学生と、中期的な実習を希望する学生が併存するため、企業様と学生・大学側で協議して決定している。

(b) 実施方法(企業実習)

- ・各学生が自身の将来の進路や学部の専攻を考えた上で、希望する実習先・日程を調査し、事前訪問などを相互調整の後に決定する。

(c) 実施方法(道の駅実習)

- ・企業実習に参加する学生の中で、道の駅の仕事・運営を体験希望する学生が、希望する道の駅と事前打ち合わせを行い参加する。

3. 実習の成果(学習効果・感想など)

(a) 企業実習

- ・社会人と学生の違いを体験
- ・挨拶、時間管理、元気な姿が求められる
- ・コミュニケーション能力の必要性を感じる
- ・実習体験により企業の問題点がわかる(参加しないと分からないことが多い)

※図：土岐津産業株式会社での実習の様子



(b) 道の駅体験実習

- ・お客様の年齢層が高く、平日のお客様が少ない
- ・接客業務の難しさを経験する
- ・それぞれの道の駅により、地域の特徴・駅の個性がある。

※図：道の駅「古今伝授の里やまと」での実習の様子



4. 今後の課題、解決方法の提案

- ・若者の視点・実行力を生かし、新たなイベントの企画・提案を行う。
- ・若者向けの店舗開発・商品開発を行う。
- ・地域社会についてさらに詳しく知る必要がある。
- ・新しい体験型実習の模索(地域と学生が共にできることがまだまだある)
- ・視野を広げ、地域の問題点と将来の可能性を探る。
- ・今後も体験型実習教育(職場体験やインターンシップ)を広げ、続けていきたい。

(藪下ゼミ一同)